

第25回 日本体力医学会学会賞の受賞論文

A) 地域在住高齢者のウォーキング実践と複数回または傷害を伴う転倒の関連 ～転倒リスク保有数による差異～

大久保 善 郎¹⁾ 清 野 諭^{1,2)} 藪 下 典 子¹⁾ 松 尾 知 明¹⁾
大須賀 洋 祐¹⁾ 金 美 芝³⁾ 鄭 松 伊¹⁾ 根 本 みゆき¹⁾
大 月 直 美¹⁾ 田 中 喜 代 次¹⁾

¹⁾筑波大学大学院人間総合科学研究科, ²⁾日本学術振興会,
³⁾東京都健康長寿医療センター研究所

B) 歩行路の傾斜, 歩行速度, および担荷重量との関連からみた登山時の生理的負担度の 体系的な評価 ～トレッドミルでのシミュレーション歩行による検討～

萩 原 正 大¹⁾ 山 本 正 嘉²⁾

¹⁾鹿屋体育大学大学院体育学研究科博士後期課程,
²⁾鹿屋体育大学スポーツトレーニング教育研究センター

第25回 日本体力医学会学会賞の選考について

学会賞選考委員長 定本 朋子

日本体力医学会の学会誌「体力科学」第60巻1号～5号（平成23年発行）に掲載された原著論文40篇を対象に、第25回学会賞の選考を『日本体力医学会賞授与規定』および『日本体力医学会学会賞選定のための内規』に従って厳正に行いました。その結果、今回は最優秀論文として2つの論文が選ばれました。

Aの論文は（体力科学 2011, 60: 239-248）、高齢者を対象とした広汎な調査・測定から、安全な運動実施の判断基準を実施回数および転倒リスク因子保有数から構築しています。またBの論文は（体力科学 2011, 60: 327-341）、登山を模擬した40種以上の歩行実験から、登山の生理的負担度について体系的にまとめあげています。両研究は共に「身体活動や運動を効果的に且つ安全に実施するための科学的基盤を与え、今後の運動指針の作成にも貢献する」と高く評価されました。

岐阜市にて開催された第67回日本体力医学会大会において、学会賞の授与式および筆頭著者である大久保善郎氏と萩原正大氏による受賞講演が行われました。講演を通して、あらためて両論文が日本人の体力・健康の保持増進に重要な役割を持つことを認識しました。

日本体力医学会臨時理事会（2012年4月）議事録

日時：2012年4月20日（金）午後5時30分～7時30分

場所：東京八重洲ホール 411会議室

議長：下光輝一理事長

出席者：下光輝一，荒尾 孝，碓井外幸，小野寺昇，
勝村俊仁，川久保清，坂本静男，定本朋子，
下村吉治，鈴木政登，武政 徹，竹森 重，
田中喜代次，田畑 泉，永富良一，西平賀昭，
浜岡隆文，福林 徹，山内秀樹，
吉岡利忠各理事，小林康孝監事

欠席者：大野 誠，川原 貴，栗原 敏，田中宏暁，
福永哲夫各理事，能勢 博監事

・編集委員会委員長 鈴木政登 理事
・学術委員会委員長 碓井外幸 理事
スポーツ医学研修会実行委員会委員長
未定 理事
称号委員会委員長 碓井外幸 理事
プロジェクト研究委員会委員長 田中喜代次 理事
・財務委員会委員長 勝村俊仁 理事
・プログラム委員会委員長 荒尾 孝 理事
・評議員選考委員会委員長 吉岡利忠 理事
・渉外委員会委員長 永富良一 理事
・倫理委員会委員長 坂本静男 理事
・将来構想委員会委員長 下村吉治 理事

議事に先立ち、下光理事長から挨拶がなされた。
議事録署名人として碓井、小野寺両理事が指名された。

【審議事項】

1. 役員選挙結果について（下光理事長）

配布資料により選挙開票結果ならびに当選者の報告
がなされた。（当選者は以下の通り 敬称略）

評議員会長 福永哲夫
監 事 小林康孝，能勢 博
理 事 長 下光輝一
理 事 碓井外幸，大野 誠，小野寺昇，
勝村俊仁，川原 貴，栗原 敏，
坂本静男，下光輝一，下村吉治，
鈴木政登，竹森 重，田中喜代次，
田中宏暁，武政 徹，永富良一，
西平賀昭，浜岡隆文，福永哲夫，
山内秀樹，吉岡利忠

2. 理事長指名による理事について（下光理事長）

定款12条に基づき荒尾 孝氏，川久保 清氏，定本
朋子氏，田畑 泉氏，福林 徹氏の計5名が理事に指名
され承認された。

3. 各種委員長について（下光理事長）

以下の理事に各種委員会委員長を委嘱することが提
案され，承認された。スポーツ医学研修会実行委員会
委員長については，下光理事長と碓井学術委員会委員
長で検討の上，5月理事会で再度審議・決定を行うこ
ととなった。

・総務委員会委員長 小野寺 昇 理事

また，今期からの新たな委員会として「広報委員会」，
「ガイドライン検討委員会」，「男女共同参画推進委員
会」を設置することが提案され，協議の結果，設置及
び以下の理事に委員長を委嘱することが承認された。
・広報委員会委員長 武政 徹 理事
・ガイドライン検討委員会委員長 川久保 清 理事
・男女共同参画推進委員会委員長 田畑 泉 理事

続けて，下光理事長より，各種委員会委員長に対し，
下記の依頼が行われた。

- 1) 各種委員会委員（案）を，「なるべく広く人材を
登用する」，「研究分野のバランスを考慮する」，「次
の世代（若手）を含める」，「女性研究者を多く登用
する」等の点に留意の上，5月の定例理事会までに
作成し，事務局に提出する。
- 2) 各種委員会の規程（案）を，総務委員会の補助の
下で作成し，7月の定例理事会までに事務局に提出
する。

4. その他

・シンポジウム「【重力とともに生きる】～宇宙飛行
士との対話を通して健康について考える～（主催：
JAXA）」について（吉岡理事）

1月に吉岡理事より報告が行われたシンポジウム
「【重力とともに生きる】～宇宙飛行士との対話を通
して健康について考える～（主催：JAXA）」につ
いて，英語版の資料が完成した旨が報告され，各理
事に対して活用頂きたい旨の申し出がなされた。

日本体力医学会定例理事会（2012年5月）議事録

日時：2012年5月18日（金）午後5時30分～7時30分

場所：八重洲倶楽部第2会議室

議長：下光輝一理事長

出席者：荒尾 孝，碓井外幸，大野 誠，小野寺昇，
川久保清，川原 貴，栗原 敏，坂本静男，
定本朋子，鈴木政登，武政 徹，田中喜代次，
田中宏暁，田畑 泉，西平賀昭，浜岡隆文，

福永哲夫，山内秀樹，吉岡利忠（各理事）
小林康孝（監事），
松岡敏男（第67回大会事務局局長・岐阜）
欠席者：勝村俊仁，下村吉治，坂本静男，竹森 重，
永富良一，福林 徹（各理事），能勢 博（監事），
古田善伯（第67回大会長・岐阜）

【審議事項】

1. 前回議事録の承認

理事会開催中に各自で議事要旨の内容確認を行い、訂正等がある場合は申し出ていただくこととし、理事会終了後に承認とすることとした。また、議事録署名人として福永、吉岡両理事が指名された。

2. 各種委員会について（各種委員長）

前回の理事会で未決定であったスポーツ医学研修会実行委員会の委員長を山内理事に委嘱することが承認された。また、各委員長から委員名及び推薦理由が報告され、併せて、今期の委員会活動の方針が報告された。委員会委員は全て委嘱することが承認された。

3. 日本体力医学会定款（案）について

（小野寺総務委員長）

法人化に伴い新しい定款（案）が報告された。本理事会ではまとまらなかったため、新旧対比する形（定款の変わる部分を明確にした状態）で資料を作成し、7月の理事会で再度審議することが決定された。

4. 共催依頼（第34回国際重力生理学会）について

（吉岡理事）

本学会とも関係のある学会であり、金銭面の共催ではなく名義のみの共催ということをお願いしたいとの説明があり、共催するということが承認された。

会 期：2013年6月23日（日）～28日（金）

会 場：穂の国とよはし芸術劇場（PLAT）／愛知県豊橋市

学術集会名：第34回国際重力生理学会

5. 名簿について（事務局）

事務局から会員名簿の作成スケジュールが提案された。前回の会員名簿では住所を載せていない会員が目立ち、会員名簿が有効に使えていないという意見や、WEBでIDとパスワードでログインして会員名簿をチェックする形でもいいのではないかと意見もあった。会員名簿に関してまずは総務委員会で検討し、どのような形式の会員名簿にするかを次回7月の理事会で審議することとなった。

6. その他

称号委員長の確井理事よりスポーツ医学研修会の現在の参加人数と講師依頼を行った旨の報告がなされた。現在までの仮申し込み者は14名であり、本来であれば20名に満たない場合は開催しない方向ではあるが、申込者の中に昨年からの繰り越しの方がおり（昨年基礎コースのみ受講した方が今年応用コースを受験する予定）、もし今年開催されない場合はその方は称号がもらえることができなくなってしまうため、理事会として承認してほしい旨の報告があり、理事会として20名に満たない場合でも本年はスポーツ医学研修会を開催することが承認された。

【報告事項】

1. 各種委員会報告

1) 総務委員会（小野寺委員長）

法人化の審議、学会大会長の推薦、地方会の盛り上げ、学会大会の平成24年岐阜・平成25年東京・平成26年長崎・平成27年和歌山・平成28年岩手までの大会長を推薦する予定だという旨の報告がなされた。9月の理事会までに平成26年の長崎大会の大会長を推薦するという予定が報告された。

2) 編集委員会（鈴木委員長）

5月25日に体力科学の英文誌（JPFMS誌）の1号が発刊される旨の報告がなされた。英文誌について、当初の予定では10編の論文を掲載する予定が実際には24編（内4編がオリジナル論文）掲載することになった旨の報告がなされた。外国から14編（韓国5編、中国4編、台湾2編、マレーシア1編、ギリシャ1編、スペイン1編）の投稿があり、1号は外国からの採択はなかった旨及び日本から英文誌への投稿は23編あり、そのうちの4編がオリジナルとして採択された旨の報告がなされた。当初の予算より2倍近く費用が掛かってしまったが、前倒して採択をしたため、予算に関しては解決される予定であるとの報告があった。

体力科学（和文誌）の現在の発送について、不要と申し出のあった会員には現在発送を行っていないが、英文誌に関してはその問い合わせもまだ行っていないため、1号は全会員に発送する旨の報告があった。全会員への発送のため約5,600部英文誌を発送することとなり、こちらは予算がオーバーする見込みである旨の報告がなされた。

英文誌の要・不要の問い合わせ方法に関して、往復葉書で会員に問い合わせるか、またはHPで回答してもらう方法が良いかを現在検討している旨の報告がなされた。

2. 第67回（岐阜）大会の進捗状況

（松岡67回大会事務局長）

配布資料により以下の報告がなされた。

1) 演題登録

4月10日より演題登録を開始し、5月末でメ切る予定である旨の報告がなされた。

演題数が目標数に達していないため、本学会事務局からメールの一斉配信を行って会員に周知を行う予定である旨の報告がなされた。

2) 教育講演・シンポジウムの講演依頼

以下の先生方に講演依頼を行った。

教育講演：下光理事長、吉岡理事、福永理事、川上泰雄氏、高橋繁浩氏（中京大学）

学会指定シンポ：出村愼一氏（金沢大学）、内藤久士氏（順天堂大学）、石井直方氏（東京大学）、杉田正明氏（三重大学）、喜久生明男氏（岐阜スポーツドクター・日本代表ホッケーチームドクター）

3) 一般シンポジウム採択

6題が採択された旨の報告がなされた。

4) 懇親会

150名程度なら会場の手配ができるので開催を予

定しているが、予算との関係で開催が難しくなるかもしれないとの報告がなされた。

5) 若手激励賞

5名～7名程度の採択を予定している旨と、以下の先生方に査読依頼を行った旨の報告がなされた。
査読者：古田善伯大会長，下光理事長，吉岡理事，小野寺理事，鈴木理事，碓井理事，浜岡理事

6) 持久走

尚子ロードと呼ばれる高橋尚子選手が練習したと言われるコースの使用許可を、岐阜市に頂いた旨の報告がなされた。

7) 託児所

託児所の開設を行うというお知らせをHPに載せたところ、現在すでに2件の申し込みがあった旨の報告がなされた。

3. 第68回（東京）大会の進捗状況

（栗原68回大会大会長，鈴木68回大会副会長）

配布資料により以下の報告がなされた。

1) 主題

高齢社会になった日本の現状を考え，“健やかに生きる”を大会の主題にしたとの報告がなされた。

2) プログラム

- ・高齢者から競技選手にいたるまでの体力
- ・栄養
- ・疲労の問題

以上3つをプログラムの柱にする予定だという旨

の報告がなされた。

3) 会期・会場

会 期：平成25年9月21日(土)－23日(月/祝日)

会 場：日本教育会館，学術総合センター

4) 懇親会

開催する方向で準備を進めている旨の報告がなされた。

4. その他

1) 日本スポーツ体育健康科学学術連合（吉岡理事）

以前から本学会大会のプログラムのシンポジウムで共催をいただいている日本スポーツ体育健康科学学術連合（本学会は会員として所属）に、67回岐阜大会の大会プログラムのシンポジウムも共催をいただいているかと提案がなされた。

67回岐阜大会長&事務局長でどのシンポジウムを共催いただくかについて決定を行い、同決定について、吉岡理事から先方に共催の依頼を申し出るという事が決定された。

2) ガイドライン委員会への依頼について（吉岡理事）

現状、臨床のためのガイドラインは数多くあるが、学生実習の際のガイドラインがないため、学生実習のためのガイドラインを日本体力医学会として作成できないかとの提案がなされた。

3) 事務局担当変更（事務局）

体力医学会事務局担当が「大橋信一郎」から「仁田尾慶太」に変更になる旨の報告があった。

第156回日本体力医学会関東地方会のご案内

開催日：平成24年12月8日(土) 13：00より（予定）

会 場：東京農工大学府中キャンパス

（東京都府中市幸町3-5-8）

最寄り駅：①JR武蔵野線北府中駅より徒歩約12分，②JR中央線国分寺駅南口2番乗場から府中駅行バス（明星学苑経由）で約10分，③京王線府中駅北口バスターミナル2番乗場から国分寺駅南口行バスで約7分(晴見町バス停下車)

(http://www.tuat.ac.jp/basic_information/access/index.html)

当番幹事：下田政博（東京農工大学・大学院農学研究院・健康アムニティ科学）

TEL：042-367-5642（FAX同じ）

E-mail：shimoda@cc.tuat.ac.jp

【予定プログラム】

1. 特別講演（予定）タイトル等未定
2. シンポジウム（予定）テーマ等未定
3. 一般研究発表（口演のみ，シンポジウム終了後）

・発表時間：1演題11分を予定（発表8分，質疑応答3分）

・発表形式：PCのみ（スライドやビデオ等は不可）

・会場で使用するOSは，Windows7です。

・演題を申し込みいただいた方には，発表用データの作成・持込に関する詳細につきまして，あらためてご連絡いたします。

※参加費無料（日本体力医学会非会員の方は，¥1,000）

【一般演題の申込要領】

演題題目，発表演者名および共同演者名とその所属，口演要旨（400字程度），連絡先（氏名，所属先，郵便番号，住所，電話およびファクス番号，E-mailアドレス）をワードにて作成し，添付ファイルにて下記のE-mailアドレスまでお送りください。

※一般演題のメ切：平成24年11月3日必着

問合せ・送信先：下田（東京農工大）

E-mail：shimoda@cc.tuat.ac.jp

平成25年度日本体力医学会プロジェクト研究公募について

日本体力医学会プロジェクト研究（以下、プロジェクト研究）は、平成9（1997）年度に発足しました。日本学術会議体力科学研究連絡委員会から「日本人のための健康体力指標の標準化、及び健康増進・疾病予防のための身体活動に関する推奨・指針作成への提言」が出されたことを受けて、平成16年度からこの提言に関わるプロジェクト研究を公募して参りましたが、平成25年度の公募研究テーマが下記のごとくに決定しましたので、奮って応募いただくようご案内致します。

プロジェクト研究の全体像

- プロジェクト研究は、日本人の健康維持・増進に関連した体力および身体活動・運動を主題とした研究であり、その成果として、社会に向けて勧告、指針などの提言がまとめられるものでなければならない。
- 平成25年度は下記のいずれかの研究テーマに関わる研究課題に限定する。
 - 特定保健指導(メタボリックシンドローム対策)に関する基礎的研究
 - こどもの生活習慣と健康づくりに関する研究
 - スポーツ科学(体力科学・体力医学)に関する研究
- 多施設が共同研究を行うことにより、より優れた成果が出るような研究プロジェクトであること。その際に各研究者の役割を明確にすることが必要である。
- プロジェクト研究の選考は学術委員会の下部組織であるプロジェクト研究委員会が行う。
- プロジェクト研究の申請は、研究代表者（評議員）と数名の発起人が、研究計画書を共同で作成し、プロジェクト研究委員会に提出する。
- プロジェクト研究委員会では提出された研究計画書を審査し、採択候補研究を選定する。なお、新規採用可能件数は1～2件である。
- 採択された研究の代表者は研究計画を体力科学に掲載して、研究協力者を募集することも可能である。その場合、研究協力者の人選は研究代表者と発起人に一任する。また、プロジェクト研究委員会が必要と認める場合には、他の研究者を指名して加えることもできる。

- プロジェクト研究委員会は研究計画に基づき研究費を配分する。研究費は主に調査や資料の収集などに当てるものとする。年間およそ100万円程度を限度として配分する。プロジェクト研究の研究成果は3年以内でまとめ、(1)プロジェクト研究委員会の審査を経て、理事会の承認を得ることとし、(2)「体力科学」および日本体力医学会大会において公表する。（注：学会の公式見解とするかどうかは、理事会で審議する）

プロジェクト研究に応募される方は、研究代表者（評議員に限る）と数名の発起人が、以下の項目に沿って研究計画書をA4版にワードプロセッサで書き、平成25年4月30日までに下記の提出先にお送りください（電子メールによる提出も可）。研究計画の採否は追って、研究代表者に通知します。

研究計画書

- 研究代表者名(署名捺印してください)、所属部署・所属大学など、住所、最終学歴(卒業大学または修了大学)と年月日、学位の有無、連絡先の住所、電話、ファックス、電子メールアドレス
- 研究発起人名、所属部署・大学、最終学歴(卒業大学または修了大学)と年月日
- 研究課題
- 研究目的(200字以内)
- 研究期間(3年以内)
- 研究計画(200字以内)
- 研究方法(400字以内)
- 期待される研究成果(200字以内)
- 研究費の使途(会合費、通信費、印刷代などの費目)に分けて概算を記載してください
- この研究に関するこれまでの成果(原著、著書などの研究業績)を番号をふって書いてください

提出先 田中喜代次

日本体力医学会プロジェクト研究委員会委員長
〒305-8574 つくば市天王台1-1-1
筑波大学体育系
電話：029-853-2655 Fax：029-853-2986
E-mail：tanaka@taiiku.tsukuba.ac.jp

第25回日本肘関節学会学術集会のご案内

- 会 期：平成25(2013)年2月8日(金)、9日(土)
- 会 場：都市センターホテル(東京都千代田区平河町2-4-1)
- 会 長：別府 諸兄(聖マリアンナ医科大学整形外科)
- メインテーマ：難治性上腕骨外側上顆炎の解明をめざして
- WEBサイト：<http://www.congre.co.jp/elbow25>
- 演題募集期間 9月5日(水)～10月10日(水) 正午
右記の主題候補、一般演題をホームページにて募集しています。

シンポジウム(一部演者指定)

- 上腕骨外側上顆炎【難治例】
- 野球肘の病態と治療

主題(一部指定)

- 肘周辺神経障害(肘部管症候群・橈骨管症候群)
- 肘関節の画像診断
- 肘周辺の鏡視下手術
- 変形性肘関節症
- モンテジア骨折(新鮮・陈旧例)
- 私の薦める手術手技(ビデオ)
- 新しい試み、工夫
- 肘関節疾患とハンドセラピストとの連携の実際

第29回公益財団法人明治安田厚生事業団 健康医科学研究助成応募要項

公募テーマ：

- a. 指定課題研究テーマ：運動とメンタルヘルス
- b. 一般公募研究テーマ：積極的な健康の維持増進に活用できる研究課題

※研究者1人につき、aかbのいずれか1件のみ応募可

主催：公益財団法人明治安田厚生事業団

後援：日本体力医学会・明治安田生命保険相互会社

選考委員（敬称略・五十音順）

委員長：福永哲夫（鹿屋体育大学学長）

委員：井澤鉄也（同志社大学教授）

委員：定本朋子（日本女子体育大学教授）

委員：下光輝一（公益財団法人健康・体力づくり事業財団理事長）

委員：新開省二（東京都健康長寿医療センター研究所研究部長）

委員：永松俊哉（公益財団法人明治安田厚生事業団体力医学研究所所長）

資格と条件

健康の維持増進に関する研究を行っている40歳未満（申請時）の方で、所属する部署の所属長あるいは指導教官等の推薦を受けた方（修士課程以下の学生、前年度対象者は除く）

応募の方法

ホームページより申請書をダウンロードして作成する事務局宛に作成した申請書を添付して、メール送信する

締切日：平成24年10月25日必着

選考結果の発表：平成25年1月10日頃本人宛書状で通知

助成の金額：総額1,500万円

研究成果の報告

助成決定者は研究の結果を所定の様式で論文にまとめ、平成25年11月12日必着で提出

論文は健康医科学研究助成論文集に掲載する

対象研究を他に発表する場合は明治安田厚生事業団助成による研究であることを明記する

留意事項

営利を目的とする研究や、すでに完了している研究は対象としない

申請内容（題目、共同研究者、目的、方法など）については、やむを得ない場合を除いて改変を認めない

申請書のダウンロード

<ダウンロード>

URL: <http://www.my-zaidan.or.jp/josei/>

申請書の提出・問い合わせ先

<提出・問い合わせ>E-mail: josei@my-zaidan.or.jp

公益財団法人明治安田厚生事業団体力医学研究所
研究助成事務局

〒192-0001 東京都八王子市戸吹町150

TEL 042-691-1163 FAX 042-691-5559

第35回 公益財団法人 石本記念デサントスポーツ科学振興財団学術研究募集

主催：公益財団法人 石本記念デサントスポーツ科学振興財団

THE DESCENTE AND ISHIMOTO MEMORIAL
FOUNDATION FOR THE PROMOTION OF
SPORTS SCIENCE

応募資格：

①体育学、健康科学、人間工学、被服科学、運動施設工学等健康の増進と体力の向上に関わる学術、およびその他スポーツ振興に寄与する学術研究に関する講座を持った大学、およびこれに準ずる研究機関に所属する個人またはグループ。

②高校生から幼児までの教育機関に奉職しており、①に前述した分野で研究または調査活動を積極的に行っている個人またはグループ。

この場合、運動生理学的研究でなくとも、あくまで教育現場に於ける身近なテーマで、すぐにも役立つ研究テーマを求めている。

但し、研究報告等に不慣れな人は、報告書作成に習熟した人を共同研究者に加えて申請のこと。

学術研究テーマ：自由課題学術研究

本財団の主旨に添ったものであり、申請者がこれまで行って来た研究を助成することによって、調査・研究の発展・充実が期待されるものであること。

応募方法：本年度の公募締切日は2012年11月9日です。

応募者は、所定の申請用紙に研究テーマ、目的、内容および期待される成果等を簡潔に書き、2012年11月9日（当日消印有効）までに下記宛提出すること。

（申請書は所定用紙または当財団ホームページより、**B4サイズにてダウンロードしたものとする。**但し所定用紙をコピーし使用する場合は、第35回申請書をコピーのこと、自作による作表および前回までの用紙は使用しないこと）

応募書類 送付先・資料の請求および問い合わせ：

〒543-8921 大阪市天王寺区堂ヶ芝1-11-3

(株)デサント 企画開発部内

公益財団法人 石本記念デサントスポーツ

科学振興財団 編集局

TEL：06-6774-0252 FAX：06-6774-0399

ホームページアドレス：

<http://www.descente.co.jp/ishimoto/>

公益財団法人ソルト・サイエンス研究財団平成25年度研究助成の公募について

1. 助成の対象
 - ＜一般公募研究＞
 - 単年度（平成25年4月1日～平成26年3月31日）
 - ・医学分野：塩類の生理作用、健康に及ぼす影響に関する研究
 - 食品科学分野：食品の加工・調理・保存及び食品栄養における塩類の役割に関する研究
2. 募集件数および研究助成金額
 - ＜一般公募研究＞
 - ・医学分野：6件
 - 食品科学分野：3件
 - ・研究助成金額：1件当たり100万円以下
3. 応募資格：日本国内の大学、公的研究機関等で研究に携わる人(学生・研究生等を除きます)。若手研究者の積極的な応募を期待。
4. 応募方法：財団のウェブサイトから平成25年度研究助成募集要領（Microsoft Word）をダウンロードし、募集要領に基づいて所定の書式に記入のうえ、書面により提出。
5. 応募期間：平成24年11月1日～平成24年12月20日まで（締切日財団必着）
6. 提出先：公益財団法人ソルト・サイエンス研究財団
〒106-0032 東京都港区六本木7-15-14
塩業ビル3階
電話：03-3497-5711
URL：http://www.saltscience.or.jp
7. 選考結果の通知：財団の研究運営審議会による審査・選考を経て、3月に応募者へ書面で通知。

第9回JISSスポーツ科学会議開催のお知らせ

国立スポーツ科学センター（JISS）では、JISSの研究成果を広く公表するとともに、スポーツ医・科学・情報の研究者、コーチ、競技団体関係者が一堂に会し競技力向上のための意見交換を行う場として、JISSスポーツ科学会議を開催しています。

このたび、第9回JISSスポーツ科学会議「スポーツ科学、次へのステップ ～ロンドンオリンピックとこれから～」を平成24年12月7日（金）に味の素ナショナルトレーニングセンターにおいて開催することとなりました。海外強豪国から招待した講演者による特別講演や、先日開催されたロンドンオリンピックにおけるJISSの取り組みの紹介、また、次のオリンピックに向けての展開など、盛り沢山の内容となっておりますので、奮って御参加ください。

申込方法や会議の詳細については、決定次第、国立スポーツ科学センターのホームページ（<http://naash.go.jp/jiss/>）に掲載しますので、御参照ください。

【日 時】平成24年12月7日（金） 10:00～18:00（予定）

【場 所】味の素トレーニングセンター 研修室

※同じ敷地内ですが、JISSとは建物が違いますので御注意ください。

【参加費】無 料

お問い合わせ先

国立スポーツ科学センター運営部研究協力課

電話：03-5963-0202 FAX：03-5963-0244

Eメール：research-01@jiss.naash.go.jp

編 集 後 記

体力科学誌第61巻5号をお届けいたします。本号には4編の原著論文と1編のノートが掲載されております。今回のように体力科学誌に掲載されている論文にはヒトを対象とした研究報告が非常に豊富にあります。生命科学系の研究目的の根本は当然人々の健康を願うものであり、究極的にはヒトを対象とした実験による研究仮説の証明が必須です。私自身は動物を用いた研究が中心となっておりますので、当学術誌を毎回重宝して読んでおります。

さて、ご存知のように、体力科学誌は我が国の健康・スポーツ科学分野において最もよく知られた学術誌の一つです。また、今年に入ってから念願の本学会国際誌、The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine (JPFSM)も発刊されました。これら歴史ある和文誌とフレッシュな英文誌の位置づけについて会員の皆様はどのようにお考えでしょうか？

どの研究分野においても、その成果は論文により評価されます。健康・スポーツ科学分野においても国際的視野を持った若手研究者が増えている中、多くの方は、出来るだけ高いインパクトファクター（IF）を持つ学術誌に投稿することをお考えになられていると思います。IFで研究の質を評価することについては賛否両論ありますが、自分なりに手応えのある研究成果が得られたときにはやはりIFを意識して投稿される方が多いかと思います。このようなご時世に、体力科学とJPFSMが今後発展し続けるためにはどうしたらいいのか、一編集委員として私なりに思案することがあります。当面のJPFSM誌は、大学院生を中心とした博士論文や修士論文をはじめとする新進気鋭の研究者の受け皿的journalとして、しかし後々にはbig journalとして発展していくことが期待されます。その反面、和文誌の投稿論文数の確保は今後悪戦苦闘することが予想されます。

そこで今後の和文誌のあり方について、私が思うこと

を述べさせていただきます。勿論、日本人の健康に直接関連している研究報告も多くありますので、そのような研究成果を公表する場として本和文誌の存在は不可欠です。こうした研究以外の投稿論文数を如何に増やしていくかが今後の課題です。今では博士論文に限らず修士論文でも英文誌に投稿することを目標とされている指導教員や大学院生が増えてきております。その方々に敢えて研究成果を和文誌に投稿して下さいと呼びかけるのはナンセンスです。しかしその一方で、最初の論文をいきなり英語で書く、書かせる、というのも些か問題があるように思われます。英文誌と和文誌の書き方は違いますが、両者とも研究の意義や成果について要点を纏めて表現するという点では同じであり、日本語で上手く書けなければ英語でも同じです。新人研究者の多くは日本語でも研究成果を上手く纏めるためにはかなりの努力を必要としますので、私自身としては、最初の論文は和文誌に掲載されることを目標に日本語でしっかり書き上げるべきだと思います。もし研究指導者の方が修士論文も英文誌へ投稿することを目標にされている場合は卒業論文の段階で、あるいは修士課程1年目の段階で、医学部であるならば3、4年生時の基礎配属の時に、和文誌への掲載を目標とした学生への研究教育指導を実施することが可能ではないかと思えます。

勿論、体力科学誌に掲載されるためには採択基準をクリアする必要があります。しかし、当誌は、複雑な実験系を要求している訳ではなく、研究意義が明確で、結果の解釈が正しく、発展性のあるものであれば採択される可能性が十分にあります。特に研究経験のない学部学生への研究指導は大変ですが、学術誌への論文投稿まで漕ぎ着けるか否かは指導教員の力量にかかっております。和文誌の今後の展開は会員の皆様次第です。投稿論文数を増やす一アイデアとして、お含み置きいただければと思います。

和 気 秀 文

The Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine Vol.61, No.5

体 力 科 学 第 61 巻 第 5 号

平成 24 年 9 月 25 日 印 刷

平成 24 年 10 月 1 日 発 行

編 集 兼 発 行 者

鈴 木 政 登

発 行 所

〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13 小石川アーバン4階

一般社団法人 学会支援機構

日本体力医学会

編 集 事 務 局

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1

鶴岡印刷株式会社内

「体力科学」編集事務局

TEL・FAX(共通) 0235-22-3120

E-mail: hj-tairyoku@turui.co.jp

印 刷 所

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1

鶴岡印刷株式会社
